

空間能力には男女差がある 理解度にも差が生じる

では、「空間能力」に男女差があることを前提にどのように女性に話や説明をし、何に気をつけたらいいのでしょうか？

まず、「空間能力」が劣る女性には、平面図から頭の中で立体をイメージすることが苦手だと思われれます。かくいう私も平面から立体をイメージしきれません。

だから女性に立体をイメージしてもらおうには、対男性と同じように説明しても、理解度に差が生じるのもしょうがない。

模型ではダメ

では、模型やパースで立体をイメージしてもらおうプレゼンをすればいいかというと、そう単純でもないようです。

というのは、縮小されると実際の大きさや広がりイメージがつかめない女性もいるからです。

この業界にいると1/50や1/100など縮尺表示が当たり前ですし、縮尺は感覚として体得でき

ていて当たり前です。

だからビルダー側からすれば縮小した精巧な模型を作ればお客さまにもわかりやすいだろうと思つても当然かもしれません。

でも世間一般では、縮尺して表示されるようなものはあまりないですよね。

車や家具や家電のようなある程度大きい品物を買うにも、お店に行けば実寸の商品があります。そうした実寸の世界で日常を過ごしているわけです。

ただでさえ「空間把握」が苦手な女性が縮尺の感覚など身に付けているとは思えません。

だからいくら精巧でも縮小されている模型を見て、実寸の感覚でイメージし100%理解できる女性には少ないと思われる。

ちなみに私はCADで設計図書を作成していたことがあり、その中で一番苦手だったのは断面図と展開図でした。

3次元CADならば自動で生成

できますが、2次元CADの場合は平面図から自分で考え作成しないといけません。
何度作成しても途中でだんだんわからなくなっていたほどです。
ある程度慣れで感覚もつかめてきました。こういうことに元々向いていないとわかりました。

女性とビルダーのイメージがずれてしまう例

女性は平面から立体をイメージすることが苦手

模型やパースでイメージを補足してもらっても縮小されると大きさや広がりがかめれない

図面やパース・模型から想像した実物が異なる

それから実際現場で図面通りに建てられていくのを見ても、建つた家と図面を見比べ何度首をかしげたことでしょうか。
こんなに広がった？
これだけしか幅がなかった？
この窓はこんなに高かった？
なんて思ったことはしょっちゅうです。何十棟見てもこのザマですから、「空間能力」に劣るところかないのではないかと考えてしまいます。

完了検査がおりない

それでもこのくらいは、女性では珍しくないことなのです。

ここが怖いところなんです。
実寸でイメージできないとどうなるか？

建築基準法が改正され、申請中に図書の差し換えはできなくなりました。ビルダー、施主の双方に施工後イメージのずれがある場合、計画変更となれば再申請のために手戻りのためのコストもかかります。再申請なしで建築計画を変更した場合、最悪の場合、完了検査がおりない場合も出てくるでしょう。